

ご寄附の方法



金融機関等で

別添の払込取扱票に必要事項をご記入の上、金融機関・郵便局でお振り込みください。

※コンビニエンスストアでは使えません。

※ゆうちょ銀行・郵便局・三井住友銀行・みずほ銀行・みなど銀行・りそな銀行では、振込手数料はかかりません。

1 払込取扱票にご記入ください。

金融機関等の窓口及びATMで10万円を超える現金振込を行う場合は、振込をされる方の本人確認書類(運転免許証、健康保険証、パスポート等)のご提示が必要です。

2 金融機関・郵便局の窓口でお手続きください。



インターネットで

『神戸大学基金』のウェブサイト

<https://www.office.kobe-u.ac.jp/kikin/>内の、「お申し込み方法」のページをご覧ください。クレジットカード・インターネットバンキング・銀行振込のいずれかの決済方法をお選びいただけます。

ご利用可能なクレジットカード



お申し込み方法



※ご記入・ご入力いただいたおとことろ・お名前宛てに領収書をお送りします。金融機関等での振り込みは入金確認後約3週間、クレジットカード払いをご利用の場合最長で3カ月程度かかることがあります。

上記以外のご寄附について

■現金以外の有価証券、不動産等のご寄附については、企画部卒業生・基金課にお問い合わせください。

■ご遺贈や、相続されたご遺産のご寄附についても、企画部卒業生・基金課にお問い合わせください。

■書籍・CD・DVDをご提供いただき、買い取り額を神戸大学基金に充てる、『神戸大学古本募金』のご利用については、「チャリボン」のウェブサイト<https://www.charibon.jp/partner/kobe-u/>をご覧ください。

神戸大学古本募金



税制上の優遇措置について

所得税の優遇措置

「修学支援事業」に対するご寄附は、確定申告を行う際に**所得控除**または**税額控除**のいずれかをお選びいただけます。

※「修学支援事業」以外に対するご寄附の所得税の優遇措置は**所得控除**のみとなります。

所得控除 寄附金額(その年の総所得金額の40%を上限とする)から2千円を引いた額が所得税の課税所得金額から控除されます。

税額控除 寄附金額(その年の総所得金額の40%を上限とする)から2千円を引いた額の40%が所得税額から控除されます。(所得金額の25%を限度とする)

《減額される所得税の目安》

例: 給与収入700万円・課税所得400万円の方が3万円寄附した場合

所得控除
(3万円 - 2千円) × 20% (所得税率) = **5,600円**

税額控除
(3万円 - 2千円) × 40% = **11,200円**

※上記の金額はあくまでも目安です。一定の寄附金額または課税所得金額を超えると、**所得控除**の方が減税額が大きくなります。

個人住民税の優遇措置

神戸大学は、兵庫県及び神戸市の条例により、個人住民税優遇措置の対象として指定を受けていますので、本学に寄附した翌年の1月1日に各自治体地域にお住まいの方は、県民税・市民税の寄附金控除を受けることができます。確定申告をすれば、手続きは不要です。

神戸大学は、“知”と“人”を創る

『異分野共創研究教育グローバル拠点』を目指します。

神戸大学創立120周年記念募金のお願い

神戸大学基金に関するお問い合わせ

神戸大学企画部卒業生・基金課

〒657-8501 兵庫県神戸市灘区六甲台町1-1
TEL: 078-803-5414 (平日9時~12時、13時~17時) FAX: 078-803-5024
E-Mail: kikin@office.kobe-u.ac.jp

<https://www.office.kobe-u.ac.jp/kikin/>

神戸大学基金 検索



知・人・共創と協働



普遍的価値を持つ知見の集積と体系化
傑出する「知」を創る

神戸大学は国際港都・神戸にキャンパスを構え、開放的で国際性に富む文化的・歴史的背景を持ち、神戸高商時代の「真摯・自由・協同」という精神と、大学昇格時の「学理と実際の調和」という理念を今に継承しています。その伝統の具体的なあらわれのひとつが、異分野共創による卓越した先端研究推進と、社会実装に向けた研究成果還元を目指す姿勢です。

特に、世界的に注目が高まるバイオ&メディカルサイエンスの分野における、「あしたの医療を神戸から。」を掲げる神戸未来医療構想は、本学に医療機器の実証・開発拠点を設置し、産官学の高度な連携からイノベーションを起こす試みです。また、2017年度に設置した未来世紀都市学研究アライアンスは、災害関連のさまざまな研究領域を横断的に融合し、未来の都市像を研究する組織です。さらに、デジタルライフ/ヘルスサイエンス分野での先進的なプロジェクトの立ち上げや、海技のみならず自然科学と社会科学の観点から海洋研究を進める「海神プロジェクト」など、先端的研究と異分野の共創により世界に誇れる成果を目指します。

大学の社会的使命のひとつに、知的活動や創造力により“知”を創出し、そのプロセスと結実から新たなイノベーションを産出することが挙げられます。傑出する“知”は、「先端研究の推進」「社会課題を解決する異分野共創研究の推進」「世界で活躍できる人材の育成」「先導的研究成果の社会実装」「大学運営基盤の改革」、という本学の5つの戦略の基盤となる普遍的価値を有し、同時に世界が直面する課題であるSDGsの進展にも貢献するものです。

本学は、“知”の創出により社会実装の推進を目指す新しい“価値”の創造を掲げ、産業界との協働や地域との連携によって市民生活の発展に貢献する使命を自任し、さらなる高みを目指してまいります。

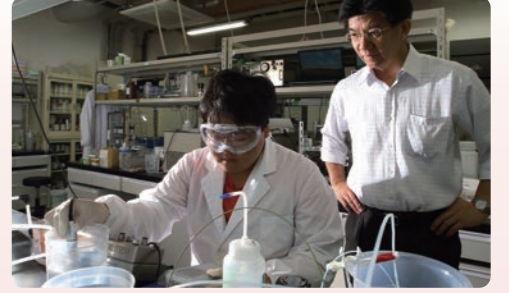
先端的な医療機器の研究・開発拠点に

神戸大学は、医学と工学の両分野が連携して、わが国が喫緊の課題とする国産医療機器開発に取り組んでいます。2020年12月には、医学部附属病院国際がん医療・研究センターで、提携企業と協力して開発した国産初の手術支援ロボット『hinotori』を用いた世界で初めての遠隔手術を行いました。今後は、ロボット動作のAI解析、5Gを利用した遠隔手術指導やナビゲーション等の研究を進めるとともに、新しい機器の開発を目指す医工融合人材の育成に向け、卓越した大学院の設置を予定しています。



グリーンイノベーションに寄与する膜工学研究

持続可能な社会の実現のためには、環境問題の解決への取り組みが急務です。先端膜工学研究センターは、日本で唯一の膜工学の総合的研究開発拠点として、カーボンニュートラルの実現を可能にする機能性CO₂分離膜や、水資源の有効利用に必要な高機能水処理膜の開発などを中心に、国際的な研究を展開しています。先端研究の成果に産業界からの注目も高まり、様々な分野での社会実装を目指し、多くの研究者が多角的・横断的に技術開発の連携を進めています。



都市の防災・減災にパラダイムシフトを

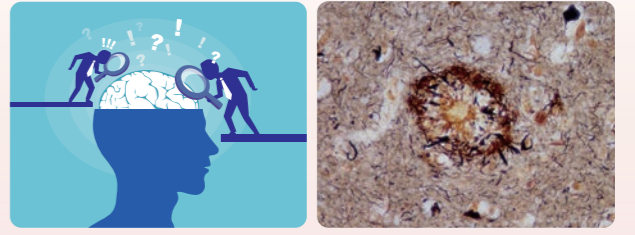
阪神・淡路大震災を経験した神戸大学は、都市の将来像を防災・減災面から研究する『未来世紀都市学研究ユニット』を設置しています。工学・医学・人文学・人間発達科学・経営学など多様な研究領域の知見を集め、分野を横断して連携・協働するもので、その研究成果を地域社会や行政、企業などに提供し、安心・安全な社会づくりという貢献に結びつけます。本学と近隣の防災・減災に関する機関をつなぎ、地域連携拠点として機能するモデルを目指しています。



都市まるごとシミュレーションでは、多様な情報を統合して可視化

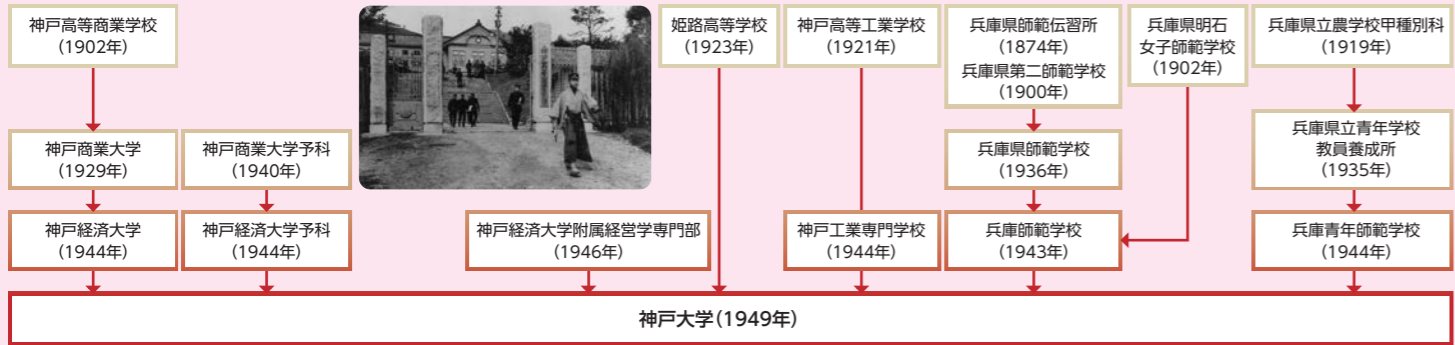
神戸バイオサイエンス & デジタルヘルス・リサーチパーク構想

神戸大学の伝統的な強みである社会科学系の研究の系譜と、先端バイオ工学などの共創拠点、さらに分野を横断した協働によるイノベーション創出から、デジタル時代にふさわしいバイオサイエンス研究を進めます。人文・社会科学の知見と生命工学系のコラボレーションおよびデジタルヘルスサイエンス研究の強化により、健康長寿に関する世界最高水準の統合研究開発拠点を構築します。

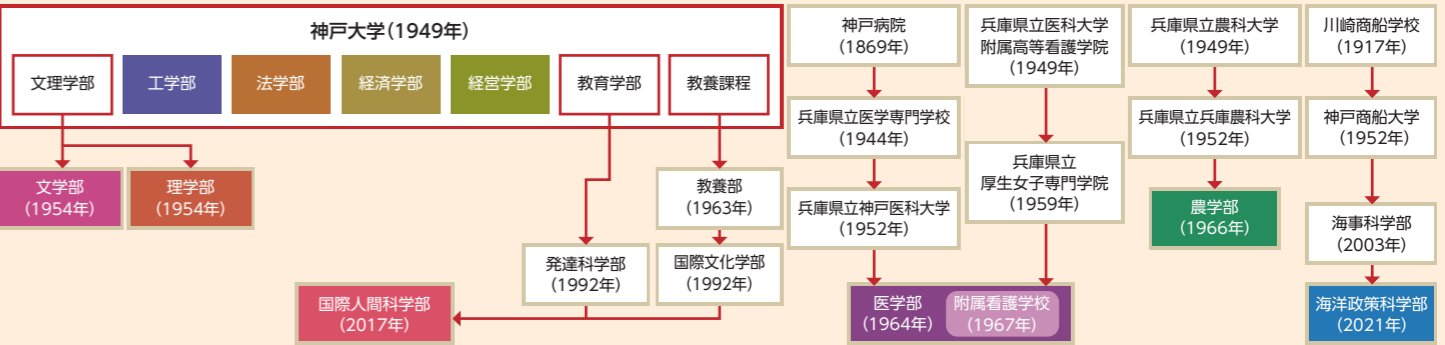


神戸で育まれた
研究と教育の伝統

神戸大学の創立は、1902(明治35)年の神戸高等商業学校設置(翌年開校)を起点としています。同校は旧制大学に昇格し、1949(昭和24)年に新制大学の神戸大学が誕生した際、兵庫県下の歴史ある多くの教育機関を包括・統合しました。



1949(昭和24)年に6学部を擁した神戸大学は、その後の改組と学校統合による新学部の設置を経て、10学部と15研究科(大学院)、研究所・センターなどの学内組織と附属病院・附属学校などを有する総合大学になりました。



研究と教育の成果を社会に還元・実装
卓越する「人」を創る

神戸大学から巣立った卒業生・修了生は、世界中で活躍しています。大学の使命のひとつは、研究と教育の成果を社会に還元し、さまざまな面で地域や国際社会の発展に貢献することです。従って、優れた人材を輩出することは、社会からの期待にお応えするとともに、大学での学術の蓄積を社会の将来に役立てることに他なりません。

神戸大学に学び研究する学生、研究者、教員が、傑出した知識や技術と高い見識や理性を身につけ、社会性と人間性、加えてリーダーシップを備えた人材として社会で役立つ存在になるために、本学は人材育成の観点、とりわけ価値創造とイノベーションに焦点を当て、時代に即した変革を行っています。

さらに、国際社会での活躍を期して、学部生全員に留学や海外研修を義務付ける国際人間科学部をはじめとして、異文化の理解とコミュニケーションに資するカリキュラム作りを全学で取り組んでいます。グローバルセンスを持つ人材の育成のために、海外協定校とのダブルディグリー制度など、多彩なプログラムを用意し国際協働拠点化を図っています。

また、2021年4月には、海事科学部を海洋政策科学部に改組しました。これは、日本が海洋立国であり、とりわけ神戸が重要な港都として海洋開発と海洋産業の創出・振興に深く関わってきたことによるものです。その伝統を受け継ぎ、“海と人間の共生”の観点から研究を進める海共生（うみともいき）アライアンスでは、海洋環境にかかる政策提言を行い、国際海洋社会を牽引する海のグローバルリーダーとエキスパートを育てます。

社会との共創面では、イノベーション実現に挑戦する人材の育成に取り組んでいます。社会システムイノベーションセンターは、イノベーション創出により社会問題を解決して貢献する、世界最高水準の総合的研究拠点です。あわせて、研究成果を新しいビジネスに結ぶアントレプレナーシップ面でのサポートにも力を注いでいます。ベンチャー企業の起業家を育て、知財・事業・財務戦略の立案と実施を支援する事業会社を設立するなど、社会実装により世界に変革をもたらし大学発のイノベーション企業を支援しています。

博士課程学生のサポートとキャリアパス支援

先端研究の現場で活躍し、次代の科学技術イノベーションを担う優秀な大学院生を育てるには、将来的な不安や不透明感を取り除く必要があります。神戸大学は、文部科学省の2021年度「科学技術イノベーション創出に向けた大学フェローシップ創設事業」の実施校に採択され、博士後期課程学生への経済的支援とキャリアパス確保を全学的な戦略に基づき実施します。

価値創造とイノベーション教育の強化

社会に革新的イノベーションをもたらす、新しい「価値」を創造できる人材を育成します。2020年度に設置した「神戸大学バリュースクール」では、世界でもまだ体系化されていないこの分野において、将来への希望や期待を起点として、社会的課題を解決するための価値創造教育を行っています。また、科学技術イノベーション研究科では、バイオ・膜工学・IT・医療と社会科学系の学問との融合により、イノベーション指向人材を育てる教学マネジメントを強化し、イノベーション・エコシステムの拡大に資する環境を整えています。

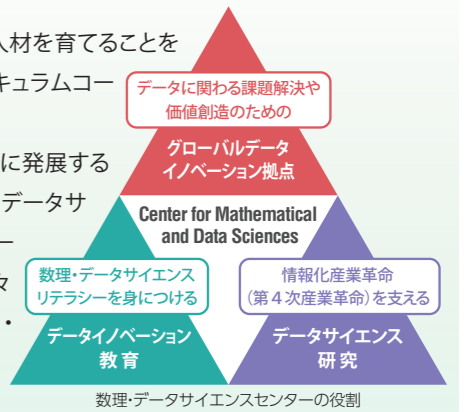


データサイエンス教育の推進

産業構造の変化に対応し、資源の宝庫であるデータを分析・解析して価値創造に結びつける人材を育てることを目的に、2017年度に設立した数理・データサイエンスセンターが、「数理・データサイエンス標準カリキュラムコース」を開講しています。



全学部生を対象として、分野や専門性を問わず、急速に発展するICT技術やAIへの理解を深めます。数理・統計・情報・データサイエンスの科目を設け、データリテラシーの涵養と、データを扱う技術の向上を図ります。学部・系列を超えて、様々な分野でデータサイエンスやAIの活用事例を知り、数理・統計の知識やプログラミングのスキルを学びます。



国際海洋社会を牽引する人材の育成

2020年にスタートした『海神プロジェクト』は、2021年度設置の海洋政策科学部を中心に、海洋に関する様々な社会問題の解決に取り組めます。新学部では、社会科学と海洋学を融合し、国際海洋社会におけるわが国そして神戸のプレゼンスを高め、海洋立国として世界をリードするために必要なグローバルリーダーの育成と研究開発を重視します。

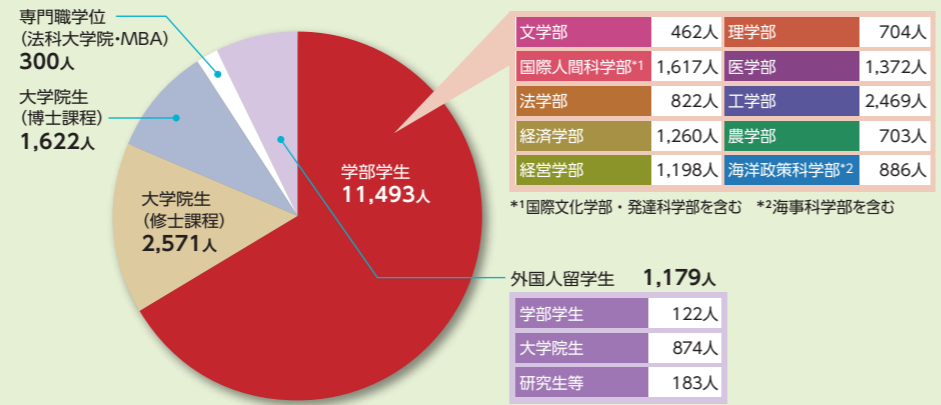
新たに建造する最新鋭の附属練習船『海神丸』は、最新鋭の海洋底探査装置を搭載するほか、災害時の物資輸送などでも活躍します。



鬼界海底カルデラの探査航海

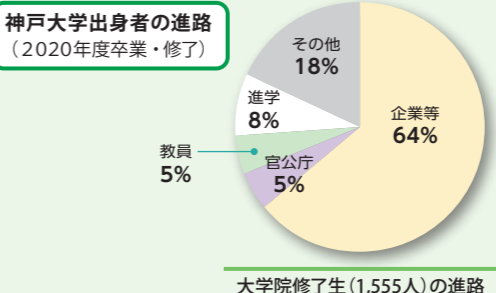
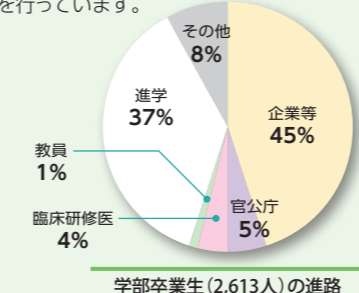
神戸大学で学ぶ学生等の数

神戸大学は国内有数の総合大学として、多くの学生や留学生が学び、研究に励んでいます。2021年5月時点での学生等の在籍者数は、17,165人です(附属学校部を除く)。



卒業生・修了生の活躍とキャリア形成への支援

神戸大学の卒業生・修了生の多くが就職し、実社会を活躍のフィールドとします。それぞれが描くキャリアデザインを実現するために、キャリアセンターをはじめ学内の様々な組織が情報提供などの支援活動を行っています。



神戸大学東京オフィス
(キャリアセンター東京分室)

首都圏での就職活動の支援や、キャリア形成をサポートする施設が「神戸大学東京オフィス」です。神戸大学基金の支援事業のひとつで、2004年にオープンしました。2014年に有楽町駅前の至便な場所に移り、首都圏の企業訪問やセミナー参加などの際に、また情報収集と交換の場として活用されています。



研究・教育の進展と社会貢献への寄与

秀でた環境の充実と整備のために

これからの神戸大学は、傑出する“知”と卓越する“人”を創る「異分野共創研究教育グローバル拠点」として、いわゆる“ニューノーマル”時代における研究・教育をリードすることを目指しています。その環境を整えるために、ICTの進化とデジタルトランスフォーメーションへの対応、国際交流と共同研究の核となるグローバル・ハブ・キャンパス構想などを軸に、制度やシステム・施設等の充実を図ります。また、実社会と緊密に連携するために、産官学が連携するプラットフォームの構築を進めます。

ダイバーシティへの取り組みも積極的に進めており、文部科学省の2018年度科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（先端型）」に、本学が申請した事業案が採用され、女性研究者の採用や上位職登用の比率向上などを目標に置いています。

本学は、国立大学の法人化以降、独自の中期計画に基づいて様々な環境整備を行い、特に2006年度に設立した『神戸大学基金』を活用し、ご寄附による多くのプロジェクトを実現してまいりました。留学への経済的補助をはじめとする国際交流のサポート、各学部・研究科が主管する研究・教育支援事業、冠奨学金や寄附講座などによる学生のベネフィット拡大など、多彩なジャンルにわたります。

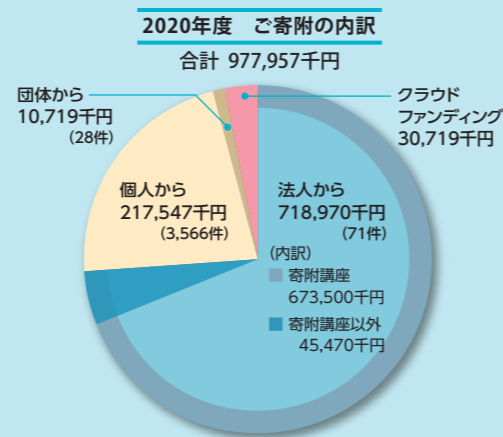
加えて現在、創立120周年を迎えるにあたり、研究と教育の活性化、また成果の社会還元や実装に向け、“知”の創出と“人材”の育成のための取り組みを強化します。これらは、“ニューノーマル”体制に対応した、先端的・国際的な研究・教育のスタイルを模索しつつ、高等教育機関としての社会的使命の実現、あわせて継続的・安定的な本学のステータス確立を図るものです。

これら『神戸大学基金』が進める、諸環境の充実を図る各種事業の遂行とさらなる拡充が、本学の目指す「異分野共創研究教育グローバル拠点」の構築には欠かせません。神戸大学に様々なお気持ちをお寄せくださる、多くのステークホルダーの皆様からの温かく力強いご支援により、本学は一層の進展を目指してまいります。

神戸大学基金 ～ 研究・教育の環境を整え、学生生活の充実を

神戸大学基金は、大学運営にかかる自主財源（外部資金）のひとつとして、卒業生をはじめとする個人、企業、団体、地域社会といった様々なステークホルダーの皆様からのご寄附・ご寄贈を活用させていただくために2006年に創設されました。

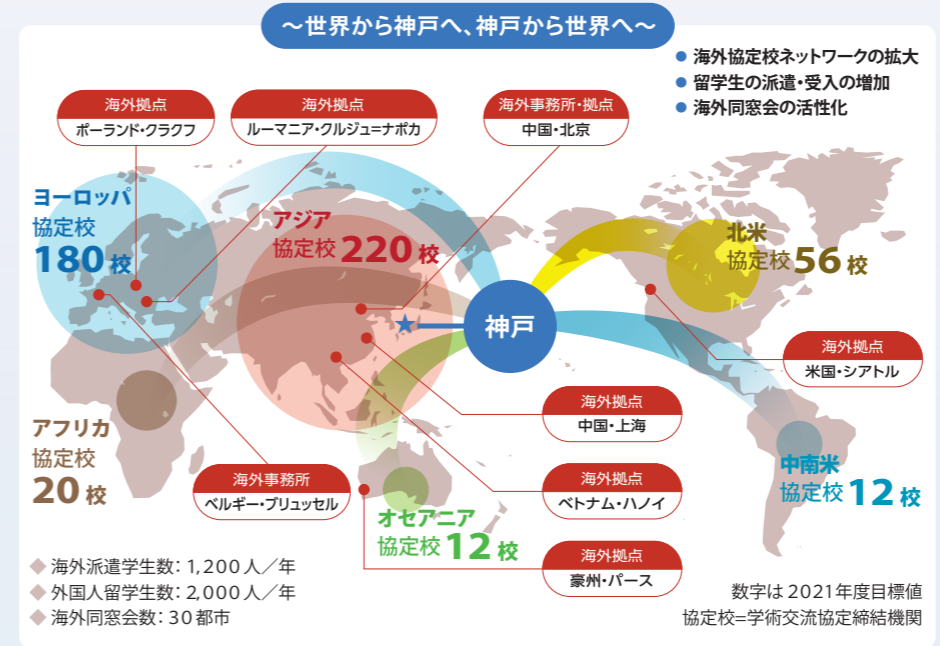
学生への奨学金給付（修学支援事業）、大学全般の研究・教育や学生生活の環境整備と留学や国際交流のサポートなど（基盤事業）、および学部や研究科（大学院）・担当部門（部局）が分野やテーマごとに目標を定める特定の事業などを支援しています。また、企業などの名を冠した奨学金・研究助成制度（寄附者名称記念事業）や寄附講座など、多様な形でのご理解とご協力をいただき、神戸大学の研究・教育における挑戦と、学生の修学環境の充実を支えています。これらのうち、学生等への直接的支援は、学生の修学と生活の経済的環境を維持・向上するためのもので、国からの大学運営費交付金に頼ることができません。従って、卒業生やステークホルダーの皆様、神戸大学を応援いただく法人様からの支援をお願いせざるを得ず、学生のサポートを安定的かつ恒常的に行えるよう、一層のご支援をなにとぞよろしくお願いいたします。



研究・教育の国際的な協働環境を創ります

神戸大学が掲げる「グローバル・ハブ・キャンパス」構想では、世界各地から優秀な人材が神戸に集まるとともに、神戸から世界に向けて研究者を派遣する拠点機能を強化します。あわせて、外国人留学生や研究者との共同研究や、本学のみならず地域社会における国際交流をサポートする設備を整えます。

また、神戸大学に学ぶ研究者や外国人教員を増やし、国際教育の質の向上と外国語による教育も積極的に進めるとともに、留学生の受入環境を整備します。一方で、本学からの留学生への経済的支援を強化するなど、グローバル化への基盤整備を進めます。



インクルーシブキャンパスの実現へ

卓越した研究を支える人材を育成する環境の充実、特に将来を担う学生や若手研究者の支援に力を注ぐとともに、社会的マイノリティーや障害がある人々も学びやすい、ダイバーシティとインクルージョンの観点から多様・多彩な価値観があふれる大学を目指します。様々な個性を持つ学生、研究者、企業人、海外留学生、ステークホルダーに対して質の高いプログラムを提供し、学びやすい環境を整えます。

ICT教育やDXの進展への対応

近年の急速なデジタル社会の進行に加え、コロナ禍による教育システムの変化に対応するために、ICT教育基盤の整備と開発を進めます。本学においても、デジタル教育改革は喫緊に取り組むべき課題であり、盤石なシステムの構築を目指します。

新型コロナウイルス感染症への対策

2020年5月、新型コロナウイルス感染症の拡大により大きく影響を受け、学生生活の経済的環境が悪化した学生と、地域医療を支えるために奮闘する医学部附属病院を支援するために、新型コロナウイルス感染症対策緊急募金を開始しました。卒業生をはじめ神戸大学を支える多くの方からのご篤志をお寄せいただき、総額は2021年3月末には7,200万円を超えました。また、外国人留学生として神戸大学で学んだ有志の方からは、医療用ガウンやマスクなどを送っていただきました。

募金を活用させていただき、学生への直接的支援として、コロナ禍により経済的援助が必要な学生への生活緊急支援金、留学先からの急遽の帰国など臨時費用を負担した学生への見舞金、各種のキャンセル料等の負担が発生した課外活動団体への支援金をそれぞれ給付しました。

また、医学部附属病院への支援として、車椅子型空気感染隔離ユニット及びサーモグラフィーの導入、病室の陰圧化工事、トリアージ室整備に伴う医療機器の購入のほか、感染対策に必要な消耗品（マスク・ガウン等）の購入費用として活用させていただいております。

Voice 給付を受けた学生からの感謝の声

- ご支援頂いたことで学生生活を継続することができました。本当にありがとうございます。支えてくださる皆様への感謝を忘れず、これからますます勉学に励みたいですね。
- 夢見ていた留学が志半ばで中止となってしまい、精神的にも辛い中で、帰国に伴う追加費用で経済的にも圧迫されていたのですが、皆様の温かいご支援により、無事に帰国し、現在は再び神戸大学で学業に励むことができます。本当にありがとうございました。